
AM 2 : 3 0

Wott

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

AM2:30

【Nコード】

N2875Z

【作者名】

Wott

【あらすじ】

真夜中、突如襲った感覚。

それを忘れてしまいたくて、ただ、吐き出した言葉。

たった今、俺が死んだ。

世界中の誰も知らないことだけれど、それは間違いなく事実だった。俺が今感じているのは、大切な人を失ったときのあの感じ。

泣き喚くでも、叫ぶでも、取り乱すわけでもない。ただ呆然と、嗚呼、もう彼には二度と会えないのだと、漠然と感じる喪失感。

それはちょうど心臓に穴が開いてしまって、その黒いところへあらゆる内蔵が音をたててなだれ込んでいくような、身体の中から急速に温度を失っていく感覚。

彼が死んだことが悲しいのではない。彼にもう二度と会うことの叶わない、この世界が悲しいのだ。

そう、俺は今悲しんでいる。莫大な喪失感に怯えながら、跡形もなく見失ってしまった俺を嘆いている。

たった今、俺が死んだ。

たくさん居る俺の内の、たったの一人。失われたのはそれだけなのに、全てを失ってしまったようになって途方に暮れている。

たった一つのパーツを欠いただけなのに、自分の中に築いてきた俺とどうしようもなくかけ離れてしまって、その隙間を埋められずに立ち尽くしている。

この感覚は、この恐怖は、この喪失感は何処から来るのだろうか。

このぞつとするような冷たい感覚。無表情にただ文字を書き連ねることしか出来ないこの無力感。

指先が震えている。俺は今、理解し始めたばかりだ。俺が死んだという事。間違いなく俺は死んだのに、今此処に俺が生きているのだということ。

死んだから、喪失感を感じるのではない。
誰かが喪失感を感じるから、そのとき初めて人間は死ぬのだ。
俺が死んだのは、俺が喪失感を感じたからだ。それはつまり俺が、
俺を殺してしまったということになるのか。

たった今、俺が死んだ。

そこで、漸く冷静さを取り戻してきたばかりの空っぽの頭で、俺は
考える。

俺はいつたい何の為に死んだのか。何故、どうして。
きっと、何処かに理由があるはずだった。

これは脱皮のようなものなのだ。

俺は考えた。

俺は生きるために死んだのだ。

俺もそう言った。

だから、死んだ俺は悲しんでいないのだと、そう思った。

たった今、俺が死んだ。

にも関わらず、俺は生きている。

このことは矛盾であり、紛れもなく真実である。

俺は、俺の葬式をしなければと思った。あの突き刺さるような喪失
感を、想い出にしよう為に。

俺は、俺の死を書き出してしまわなければと思った。そうして残ら
ず吐き出してしまえば、幾分か楽になると考えたのだ。

そして今、俺は書いている。いや、正確には、書き終わろうとして
いる。

死ぬことで、初めて存在し得た俺。その俺が俺の中に確かに存在したという事実を。

たった今、俺は死んだ。

その喪失感も、やがて死ぬのだ。

そのとき、俺はきつとまた他の俺を死なせてしまうのだろうと、漠然と思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2875z/>

AM 2 : 3 0

2011年12月10日02時49分発行